



蒲生高校だより

第10巻 第3号 (通巻第30号)
発行日 平成24年3月23日

鹿児島県立蒲生高等学校
鹿児島県始良市蒲生町下久徳848-2
電話 0995-52-1155(代) FAX 0995-52-1161
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Kamo/

美の心の醸成を

校長 和田 優子

卒業生の先輩から蒲生高校の伝統を託された在校生の皆さんは、人間力を高め、社会に貢献できる人材になって下さい。

人は、心一つで変わるものです。清掃時に道具の点

検をしています。掃く道具にゴミが付着していたら、手で取り除く必要が生じます。また、使用できない状態であれば、手を代用するか、他の道具を工夫して活用するか、知恵が必要です。「大小長短」状況に応じての判断は、「美しくしよう」という心の介在が大切です。皆さんに、美の心の醸成を目指して欲しいものです。

全員が走り通しました

校内ロードレース大会

2月10日(金)



のびのびと力走

曇った冷たい風の中、さっそうと飛び出で行った生徒たち。そんな厳しい中でも全員が制限時間内に完走しました。限界に挑戦し続けゴールをみざす精神は、必ずや今後の学校生活に生

かされることでしょう。

ゴールでは、PTAのお母さん方が、飲み物とアメなどをそろえて待っていてくれました。

個人順位

男子	1位	熊谷 俊一(情2-3帖佐中)
	2位	徳永 晋也(普2-1蒲生中)
	3位	満尾 聖斗(普1-2加治木中)
女子	1位	溝添 光(普1-2豊富中)
	2位	撓崎 春香(情2-4吉野中)
	3位	栢 美帆(情1-3蒲生中)

学級順位

1位	普1年1組
2位	普1年2組
3位	情1年3組



PTAの応援

129名の卒業式

3月1日(木)



卒業証書を受け取る学級代表

卒業式が厳粛に挙行されました。在校生の送辞と、それに応えた答辞に会場のあちこちで涙が見られました。しかし、涙の中にもたくさんの笑顔がみられ、高校生活3年間の充実と成長を感じました。卒業、おめでとう!!

(卒業生の短歌集より)
○ヤシの木を眺め続けた三年間
○母校の木々に力もたらうよ (情K男)
○高校で波乱万丈乗り越えた (普N女)
○日々のすべてが懐かしうある (情O女)
○卒業式過去の自分に背を押し進もう (情O女)

猛吹雪の修学旅行

2年生

1月31日(火)~2月3日(金)

スキー場では雪の山に大喜びでしたが、3日目は往復のバスが大渋滞にかかるほどの猛吹雪。この修学旅行で、生徒たちは多くのものと出会いました。教科書でしか知らなかった文化遺産、初めての銀世界、長時間一緒に過ごすことで深まる友情



真っ白な箱館山スキー場



USJにて

やクラスの親睦。最も意味ある出会いは、新しい出会いに自分の心がどう動くのか、つまり自分自身との出会いだったかもしれません。その表情や行動には、彼らが確実に成長している姿が見えました。

この充実した体験を3年次の進路実現につなげてほしいと思います。

チョコ配り交通安全

2月14日(火)

バレンタイン交通安全キャンペーン

バレンタインデーの午後、呼びかけに答えてくれた生徒たちが、手作りのお守りとチョコレート、交通安全協会のチラシなどを学校前の県道を通る車の運転手さんに届けました。開会式で、風紀交通委員会を代表して今村夏希さん(情2-3帖佐中)が、「一人ひとりの命の尊さを



交通安全を呼びかける



交通安全の誓い

(南日本新聞2.16に掲載)

美しい街 蒲生町に

生徒会ボランティア活動 2月24日(金)



ふるさと交流館

動を行いました。通学道路や、よくお世話になっているコンビニ周辺もゴミ拾いをし、住民の方々と挨拶を交すことで、蒲生町にあることの意識を深める良い機会になりました。今後もこのような活動の場を大切に地域社会との交流を深めていきたいと思っています。



こんなにたくさんありました

学年末考査最終日、生徒職員あわせ約200名が蒲生町内の神社や交流館、大楠ちびっ子園を含む計9カ所で、ボランティア清掃活

情報処理科の課題研究発表会

2月7日(火)

課題研究とは、自発的・創造的な学習態度および問題解決の能力を育て、専門的な技術の深化と総合化を図ることを目的とした授業です。その



進行も自分たちで

ため生徒は、商業に関する課題をみずから設定し、その問題解決に向けて自発的に調査・研究することになり

ます。今回は、資格取得に取り組む分野と、校外研修で学校近辺の商店等に行き販売実習を通して接客教育を学ぶ分野が設定されました。この日その結果を1・2年生の前でスクリーンを使いながら発表しました。



「お宝さがし」のプレゼン

生徒が語る 先輩による進路講話

2月14日(火)

進路の決定した3年生の中から進学5名、就職内定6名の計11名にお願いし、1・2年生全員に対して進路体験を発表しても

3年生の話にじっと聞き入る

りました。厳しい受験に打ち勝った生徒の進路選択から日々の努力や苦労。そして、内定を得るまでの様々な努力や体験について分かりやすく語られました。1・2年生の後輩達も、先輩達に続けるように頑張っていくことを期待します。

◎進学決定状況：大学(9名) 短大(10名) 医療系専門学校(9名) 各種専門学校(37名)

主な進学先：東海大、奈良大、鹿児島国際大、志学館大、鹿児島県立短大、鹿児島純心女子短大、鹿児島女子短大、川内職業能力開発短期大学校、鹿児島医療技術専門学校、鹿児島ホテル短期大学校、大村美容ファッション専門学校

◎就職内定状況(100%)：県内(38名) 県外(11名) 公務員(3名)

主な就職先：(株)鹿児島銀行、興業信用組合、南国建機サービス(株)、(株)イトーヨーカ堂、日野自動車(株)、(株)指宿白水館、(株)ニシムタ、(有)森三



美術部門の勉強会



大人にも子どもにも囲まれて

8冠達成なる

南 早紀さん(情3-3 蒲生中)

全商検定8種目1級を獲得しました。本校では、各種検定に積極的に挑戦していますが、カリキュラムの授業だけで「8冠」を達成することは困難です。放課後補習で補うなど努力を重ねて、このような快挙となりました。卒業後、これら資格を生かし、社会で活躍してくれることでしょう。

多読賞

図書委員会から

日頃から多くの生徒が図書館を利用していますが、今年度から図書委員会で年間の多読賞を設け、学年ごとに1名ずつ表彰しました。

久森 竜姫	177冊
(情1-3 重富中)	
園田 洸太	174冊
(情2-3 加治木中)	
川内 拓己	539冊
(普3-2 帖佐中)	

園田 洸太くん
(情2-3 加治木中)久森 竜姫くん
(情1-3 重富中)

初めて 美術・書道・写真

文化系3部門出品

2月6日(月)~9日(木)

伊佐・始良地区の文化系部活動が一同に会する展示会が霧島市シビックセンターで開かれ、本校から初めて三部門すべてに計40点出品しました。

職場・学校訪問 1年生

1月25日(水)

進路選択に役立てるために、大学・短大・専門学校・企業の4コースに分かれてそれぞれの実験を



鹿児島県美容専門学校にて

体験しました。大学・短大では施設設備の見学とカリキュラム等の説明を受け、専門学校では実習を体験させてもらいました。2ヶ所の企業では、現場で働く方々の様子を間近に見学し、働くことの大変さや大切さを学びました。進路目標を定めることの一助になればと期待します。

戦争の記憶をつなぐ

有馬昭人さん(帖佐)の講演

12月6日(火)

帖佐在住の有馬昭人さんは、9歳の時に加治木・帖佐の空襲を体験し、当時の記憶や聞き取った事実をスケッチした絵を始良市内で展示してきました。



加治木空襲を説明する有馬さん

その絵を映写しながら全校生徒に語ってもらいました。太平洋戦争開戦(日本軍の真珠湾攻撃1941.12.8)から70年にもあたり、戦争体験者も少なくなっているこの時期に、当時の生々しい状況が画面を通じて伝えられました。生徒たちは、身近な町や学校のかつての姿を聞いて驚き、戦争の悲惨さと命の尊さを学びました。(南日本新聞12.8に掲載)

生きる力を育む

本校保健部は、「生きる力を身につけさせる」ことを目標に掲げ、社会に出て迷ったり不安に思う場面に立たされても、自分を信じて自己決定できる生徒を育成したいと取り組んでいます。そのために、本校職員による『カウンセリング学習』・『性教育』・『食育』をはじめ、『普通救命講習』・『薬物乱用防止教室』・『歯科衛生講話』など、外部専門家による各種講習・講話などの保健指導も実施しています。

今後も、保護者や地域・小中学校との連携を充実させ、明るく充実した高校生活を送れるよう、そして自分に自信を持って卒業を迎えられるよう、サポートしていきたいと考えています。

蒲生市出演

12月23日(金)

吹奏楽部

藩政時代から続く年末恒例の「いち」。今年も本校吹奏楽部16名が開会イベントに出演しました。テーマは「クリスマス」。フィナーレでは、大ヒットソング「マルマル・モリモリ」の演奏に、子どもたちが踊り出すという盛り上がりでした。

(南日本新聞12.24に掲載) 大村さんのフラッグ

開会式では、大村麻衣さんデザインの始良市フラッグが紹介され、表彰されました(本紙前号で紹介)。